

第三者評価 - 学外評価委員によるもの

本プログラムは、文部科学省委託事業により、2015年と2016年に学外評価委員による第三者評価を受けました。

学外評価委員には、授業改善のために開催した講師陣から構成されるプログラム開発委員会と女性リーダー育成プロジェクトにご出席の上、講師陣とディスカッションをしていただき、また別途、受講者ヒアリングを行っていただき、それらに基づき、評価レポートを作成していただきました。

評価の主な観点は、プログラムの妥当性、女性リーダー育成プログラムとしての効果、運営方法の妥当性、受講者募集の適切性、費用支出に関する妥当性、連携組織との関係の妥当性、総合評価の7点です。

評価委員には、2015年に伊藤久美氏(GEヘルスケア・ジャパン チーフ・マーケティング・オフィサー(当時))と藤田浩之氏(大阪市市民局ダイバーシティ推進室 女性活躍促進担当課長)、2016年に伊藤久美氏(フォー・ユー・ライフケア株式会社 取締役)と松井伊代子氏(大阪商工会議所 人材開発部次長)をお招きしました。いずれの方からも2~3ページにわたる評価レポートを頂戴しました。プログラムの妥当性と総合評価を中心にその主な結果(抜粋)を下記に公開いたします。これらに見られるように、本プログラムに対して高い評価がなされています。改善点も提示されましたので、今後の運営に活かしていきたいと存じます。

ハッピーキャリアプログラム 女性リーダー育成コース
企画運営コーディネータ 大内章子

◆2015年度第三者評価◆

【伊藤久美氏による評価】

本プログラムは「企業における女性のリーダーを育成するために必要な教育を提供する」という目的が明確で、この目的を達成するために必要と思われる講義とサポートがバランスよく配置されており、ヒアリングした受講生からも高い満足度を示すコメントが多数あった。プログラムの設計と実践が合致しており、妥当性は高いと判断できる。

カリキュラムは10ヶ月間でコア・ベーシック・アドバンストにわかれた必修科目および選択科目をベースとし、単に座学として聞いているだけでなくグループや個人で実際にアクション・ラーニングの形で実践する中で学ぶアプローチを主眼としている。このアプローチは実際の自分の持つ課題を題材として組織論やマネジメント、ロジカルシンキングなどを体得するために有効であることは、実際の講義の聴講および受講生のヒアリングからもよくわかった。また、選択科目も含めてビジネススクールの教授の講義を数多く受けら

れることは、受講生たちのモチベーションにも大きく寄与しており、同時にマネジメントに求められるレベルを認識できるという意味でも有効である。また、実際の講義においては企業で実際にマネジメント業務に従事している役員などを招聘し、具体的なケーススタディを複数回実施することで、机上の空論ではない実践的なアプローチを実現している。
(総合評価)

本プログラムは適切に運営され、期待どおりの成果をだしていると評価できる。

【藤田浩之氏による評価】

女性リーダー育成を支援する本講座は、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科のビジネススクールが持てるノウハウを、受講生たちに余すところなく提供しており、大変有意義であると考えます。また、受講生たちの評価も高く、内容としては大きく変更を行う必要はないと考えます。

受講生や講師陣の意見から感じたことは、受講生たちが本講座で勉強することへの意義をどう持ち、自律しながらいかに学び、リーダーとしていかに役割を果たしていけるかということ、本講座によってどのようにフォローすることができるかである。本講座を受講しようとして決心し、その一歩を踏み出した受講生たちの勇気を評価する一方で、自身の女性リーダーとなりうるための主体的な取組みを促すような働きかけが不可欠であると考えます。そのためには、本講座で既に実施されているゲストスピーカーによる授業やメンター相談会による、自身の職場では経験できない成功談や職場における男性上司にはできない相談などが有効であろう。本講座の受講生が将来どのような立場の女性リーダーになったかについて修了後の追跡調査を行ってみたいと思う。来年度以降の本講座のさらなる進化を期待している。

◆2016年度第三者評価◆

【伊藤久美氏による評価】

前期の反省に立ち、ビジネススクールの学生と一緒に受けられる授業を充実させたことで、生徒の満足度も非常に高く、また「自分たちはこれまでこのような視野でトレーニングを受けることがなかった」といった気づき（および企業における依然として発生している教育機会のアンバランスの是正）があったほか、また教える立場からも「お互いに異なる視点からのディスカッションができた」「本コースに参加する生徒のリーダーシップの発揮がみられた」など、相乗効果を得ることができたことは大変よかったのではないかと。また、実際の講義においてできるだけ実務の現場からゲストスピーカーを入れることで、アカデミックな抽象的整理と同時に、実践の場における適用を疑似体験できることは非常に有効であると感じた。

上司へのサポートセミナーやキャリア相談会、キャリアカウンセリングなどのサポート

プログラムも参加率が高く、受講生たちの積極的な参加が目立った。企業から派遣されている生徒の場合、「このプログラムは果たして投資対効果があるのか」という観点から生徒だけにその説明責任が持たされる傾向があるが、このような取り組みがあることで、スムーズに企業にとってのメリットを明確に伝えることができる。

(総合評価)

本プログラムは適切に運営され、期待どおりの成果をだしていると評価できる。

【松井伊代子氏による評価】

本プログラムは「企業における女性のリーダーを育成するために必要な教育を提供する」という目的のもと、理論的な枠組みと実践を意識したカリキュラムで構成されている。

期間設定は10ヶ月と、仕事もプライベートでも時間がとられるワーキングウーマンの受講者にとって、ほどよい期間である。その間に、本格的なMBAの講座のエッセンスが必修科目と選択科目が組み込まれている。

今期の本コース受講者25人のみならず、仕事復帰・起業コースやIBAコースの受講者との混成授業も組み合わせることで、幅広い視野での「女性リーダー」育成を行った。

1期2期の経験をもとに工夫改善を重ねた成果は、受講者からのアンケートやヒアリングにおける高い満足度に現れている。MBAコースを有する学科による運営なだけに、カリキュラムは充実している。さらに、毎年の改善点が積み上げられ、かなり精度の高いものになりつつある。本プログラムによって、受講者に意識変革と態度変容がもたらされ、目に見えて効果があがっている。

(総合評価)

本プログラムは適切に運営され、期待を上回る成果を上げていると評価できる。

以上